



# 町長のための 寿都町ではない

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

<http://kakugomi.no.coccan.jp/>

<https://www.facebook.com/106569234530018/>



No.19 2021年2月1日発行

## 【ご挨拶】

寿都町民の皆さん、こんにちは。私たちは「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」です。

昨年8月13日、片岡春雄町長が突如として、核のゴミ最終処分場の文献調査へ名乗りをあげました。私たちはそれに反対する町民35人で結成した団体です。残念ながら、いまだに文献調査を止めることはできていませんが、「私たちの住む町に核のゴミはいらない！」という気持ちで、活動を続けています。

私たちは、これまで住民投票条例や核抜き条例を求める活動、小泉純一郎元首相などの講演会企画などを行ってきました。その活動内容は、逐一、町民の皆さんに新聞折込のチラシでお知らせしてきました。ですが、寿都町の全世帯が新聞をとっているわけではないため、私たちの活動をご存知ない方もいらっしゃるということが気になっておりました。

このたび、町民の会のメンバーが話し合い、賛同して下さっている方たちのご協力も得ながら、全世帯への自力でのチラシ配布に踏み切ることにいたしました。本チラシで、はじめて町民の会の活動を知る方もおられるかと思えます。どうかよろしく願いいたします。

当面、手配りでの配布と新聞折込を併用して皆さんにお届けしたいと考えています。「新聞を購読していないので、折込になったチラシが欲しい」という方は事務局までお問い合わせください。また、会のホームページやフェイスブックにも過去のチラシを掲載していますので、ぜひご覧ください。



## 【「対話の場」の公募はナシ？】

1月24日の北海道新聞に、「原発の課題 住民が質疑」という記事が載りました。

そこに、こうありました。

「寿都町の片岡春雄町長は対話の場について住民約20人で構成し、一部は公募するとしていたが、町は

産業団体や各地区の代表者で定員が埋まったとし、公募を取りやめた」。

この報道内容には3点の問題があります。

①ひとつ目に、記事にある通り、片岡町長は、一部の出席者について公募をすと言っていました。ところが、前言を撤回して、公募をやめるというのです。「公募に応募して、対話の場で意見を言いたい」と考えていた町民はどうしたらよいのでしょうか。「知事の言うことは聞かないが、住民の言うことは聞く」も撤回、「住民の51%が反対したら応募しない」も撤回。責任ある町長の立場にある者が、発言撤回を繰り返していることにうんざりです。

②ふたつ目に、公募しないのなら、役場が、自分たちに都合のいいように人選し、「対話しました」「反対派の人も選んで、意見を聞きました」というアリバイ作りにも利用できます。まして、それが非公開となったなら、町民の見えないところで、勝手に議論、そして概要調査の受け入れが進んでしまうことも危惧されます。

③みっつ目に、公募取りやめについて、私たちが新聞で知ったことです。町民の会が出した公開質問状に対して、「構成員や会議の設計については、現在検討中。詳細が決まり次第、広く町民にお知らせする」と回答していたにもかかわらず、町の大事なことが新聞に載って、はじめて町民が知ることが続いています。これで広く町民に知らせたことになるなら、新聞をとっていない住民を住民として認めていないことになりませんか。防災無線で水道凍結防止や飼い猫、犬のフンなどの取り扱い注意を呼び掛けているのですから、同じような方法が出来るでしょう。臨時の広報でお知らせするという方法もあるはずです。

片岡町長の夢を実現させるために寿都町があるのではないです。片岡町長ひとりが決断し、イエスマンの議員たちがそれを許して、話が進んでいくことに、私たちは心の底から危惧を覚えています。情報を公開し、住民の意見を聞く。民主主義のもとでは、当たり前のことです。寿都町の行政は、その基本ができていません。このような町長の独断専行を許してはなりません。役場職員の姿勢も問われます（『財界さっぽろ』の記事で、町長は「職員は遠慮なくなんでも言ってくれて嬉しいです」と述べていましたが、職員は本当になんでも言っているのですかね?）。

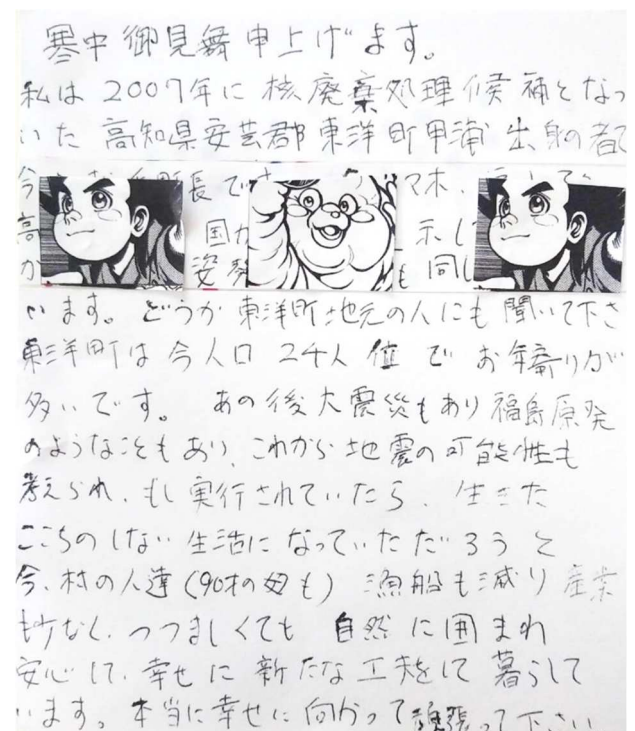
## 【東洋町からのハガキ】

1月21日、町民の会にハガキが届きました。高知県東洋町のご出身の方からです。東洋町では2007年に、町長が独断で文献調査に応募し、その後、反対運動に立ち上がった町民たちが応募を撤回させ、新町長が誕生しました。

私たちの町と同様、カネに目がくらみ、町民の意見に耳も傾けずに応募した町長がいなくなったあと、どうなったのか。最後の4行でよく分かります。

「今、村の人達、漁船も減り産業も少なくなつても自然に囲まれ安心して、幸せに新たな工夫をして暮らしています。本当に幸せに向かって頑張ってください。」

東洋町出身のハガキ主さん、ありがとうございます！励みになります！



## 【小学校で、問題多い副読本が配布される】

この年明け、寿都小学校で、1年生に『小学生のための放射線副読本』（文部科学省）が配布されました。町民の会の会員の子どもにも配布されたため、気づくことになったのですが、その内容を読んで、あきれました。

・放射線は自然界にもとからあるもので危ないものじゃないよ。福島はちゃんと復興してるよ。

・福島第一原発は原子炉に水を入れて冷やしているので安定した状態のまま、廃炉作業が進んでいます。

といった内容です。町民の会で調べてみると、この副読本は、福島原発事故の被災者や、原発問題に関心のある方たちから多くの批判を受けているものと分かりました。

どうして、いまの寿都でこの副読本が配布されたのでしょうか。教育委員会や寿都小学校に聞いてみたところ、毎年、1年生に配布しているものであり、今回の文献調査には関係しないと説明を受けました。

さらに調査すると、文部科学省が全国の小中高校に配っているものと分かりましたが、いまの寿都で、このようなものが配られたことはすっきりしません。滋賀県の野洲市では、いったん配布されたこの副読本が、「人工と自然界の放射性物質を同列のように扱い、（放射性物質が）安全であると印象を操作しようとしている」といった指摘を受け、教育委員会が内容を精査し、「放射線の安全性を強調するような印象を受ける記述が多い」といった理由から回収に踏み切っています。

文部科学省が配れと言ってるから配る、のではなく、原発・放射能・放射線といった言葉に敏感にならざるを得ない現在の寿都において、このような副読本を配ることがどういう意味をもつのか、関係者の皆さんに考えてほしいと思います。



## 【町政懇談会と議員報告会の開催を】

前回のチラシ No18 で予告していた通り、町政懇談会と議員報告会を開催するよう、1月25日に町長と議長宛に要望書を提出しました。2月8日までに、文書で回答するよう要望しています。

同日、町長と NUMO 宛に、「対話の場」についての要望書も提出しました。14項目の要望の一部を紹介します。

- ・一方的な事業説明や「NUMO等の事業責任者の意見や政策」の懐柔の場としないこと。
- ・処分事業への意見についても、多様な参加者であること。
- ・その場は公開され、傍聴できる場として作ること。
- ・場の進行は、利害関係者ではない第三者が行うこと。
- ・議事録を作成し、公開をすること。その際には、場の進行をした者と参加者の確認を得ること。

要望書とあわせて、「NUMOが設置する寿都町における「対話の場のルール」案」も提出しました。道内の複数のファシリテーターの皆さんにも助言をいただきながら作成したものです。

## 【町民の声を聞いてください】

昨年 11 月 3 日に行った小泉純一郎元総理の講演会にお越しいただいた皆さんにアンケートをお願いし、その一部は、これまでのチラシにも掲載しました。一方、町民の声をとりまとめるべき町役場は本来の役割を果たしていません。そこで、あらためて、どんな声が町にあるのか、私たちのチラシでご紹介します。

・8月13日のテレビニュースで知りビックリ！ ニュースが終わるとすぐ、東京、札幌からニュースを見た同級生、知り合いから電話・メール・ラインがすごく、電話を離せない状態でした。今までは「どこ出身？」に「寿都」と言うと、いい名前ねえと言われてきましたが、今は寿都と言うことにためらう自分がいます。

・寿都町長は住民の声を第一に考えるべきで、調査の是非は時期尚早。住民投票を行うべきです。

・寿都町の経済状況をより良くするために、核関係ではなく代案が必要かと思います。「核はダメ」はみんな知っています。寿都には風力発電があるため、再生可能エネルギーなどを主とした経済改革を目指せたらいいと考えています。

・片岡町長へ言いたい。国や経産省のお役人にテコ入れされて推進派に取り込まれても、目の前に 20 億円があるとしても、胸に手を当てて考えて下さい。子、孫の代のその先の子どもたちが苦しむ姿を、リスクにさらされた世代を想像ください。あなたの手を当てた胸にきっと理想の行動があるはず！

・最初に町長になりたいと思った時の寿都の経済状況は今よりは良かったのかもしれないけど、町長を目指した時に今の状況だったら町長は目指さなかったのでしょうか？ 町を活性化させるためには文献調査等を初めから思っていたのでしょうか？ 町民の為になってくれる気持ちで町長になったのなら、核のゴミ処理場の町にしてしまうのは残念です。初心忘れるべからずの精神で、核以外の知恵を考えてほしいです。

・町長に賛成している町議にあきれます。町長の「肌感覚で賛成が多い」って何でしょうか？ 自信があるなら住民投票を行って堂々と応募すれば良い。役場職員でさえ反対が多いと聞いています。町を二分してしまった責任はだれが負うのでしょうか。

・町民の声を無視して文献調査に勝手に応募するとは何事か。ありえない。町長は辞職させるべきだ。

・寿都町長は独裁はやめてください。町民がハッキリ言える町にしてください。

・寿都町は「ことぶきのみやこ」と書きます。その町を核のゴミ捨て場にはいけません。核のゴミは国レベルの問題です。町長が肌感覚で決められるものではありません。

・反対している人たちの考えを、まったく聞く耳を持たない町長のやり方に憤りを感じています。町長って町民の為に働いているのではないのですか？ 自分と意見の合わない町民を無視するようなやり方でいいのですか？

・寿都町長、余りにも非常識で町民を無視しています。

